

3) 外来魚の投網の同地点繰り返し打網による採捕特性

井出充彦

【目的】 オオクチバスやブルーギルを投網で採捕する場合に、同地点繰り返し打網が効果的であることを確認したので報告する。

【方法】

投網(目合い10節)による採捕を、西浅井町地先月出舟溜まりでは、平成14年9月4日、11月25日、平成15年1月20日の3回、秦荘町地先宇曾川ダム、多賀町地先芹川ダムでは平成14年9月13日の各1回行った。月出舟溜まりは、防波堤上から琵琶湖に向かって、宇曾川ダムと芹川ダムではそれぞれ7地点と3地点で、ダム湖岸から沖合に向かって、いずれも同じ地点を複数回連続して打網した。打網と打網の間隔は5分以内であった。

【結果・考察】

結果は表1のとおりであった。のべ13地点の試行のうち、オオクチバスまたはブルーギルが複数回連続して採捕された場合が4地点あった。また、1回目で採捕されずに2回目以降に採捕された場合が4地点あった。このうち11月25日の月出舟溜まりではオオクチバスが打網12回のうち11回、ブルーギルは同じく8回採捕された。この時の採捕数は、オオクチバスでは4回目までは増加し、5回目以降は増減はあるものの全体としては減少傾向を示した。ブルーギルでは0から5尾の間で推移した(図1)。これらのことから、オオクチバスとブルーギルは、投網を打つことにより、周囲のものすべてが逃げるのではなく、むしろ集まってくるものと考えられる。同様の傾向は曳き網などで産卵床保護親魚を採捕した場合にも見られた(別頁参照)。これは、投網などで採捕することによって生じる漁具の動き、音、底質の舞い上りなどに対し興味を持って近づく性質があるものと推察される。よって、投網などで採捕する場合は同じ地点で繰り返し採捕することが効果的であると考えられる。

表1 投網による同地点繰り返し打網による採捕結果

単位:尾数

年月日	地点	水温(°C)	水深(m)	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目		6回目		7回目		8回目		9回目		10回目		11回目		12回目		
				バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス	ギル	バス
平成14年9月4日	月出舟溜まり	30.4	2.1	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0															
平成14年9月13日	宇曾川ダム1	27.4	1.5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0															
平成14年9月13日	宇曾川ダム2		1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
平成14年9月13日	宇曾川ダム3		1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0														
平成14年9月13日	宇曾川ダム4		1.0	1	0	2	0	4	0	1	0	0	0															
平成14年9月13日	宇曾川ダム5		1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
平成14年9月13日	宇曾川ダム6		0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
平成14年9月13日	宇曾川ダム7		1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
平成14年9月13日	芹川ダム1	26.6	1.2	0	0	0	0	0	0																			
平成14年9月13日	芹川ダム2		1.2	1	0	1	0	2	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0								
平成14年9月13日	芹川ダム3		1.2	0	0	0	0																					
平成14年11月25日	月出舟溜まり	12.5	1.9	15	1	18	3	17	0	19	0	1	1	13	1	6	2	12	5	3	0	4	4	0	0	1	2	
平成15年1月20日	月出舟溜まり	8.3	2.0	0	0	3	0	0	0	0	0																	

注) バス:オオクチバス ギル:ブルーギル

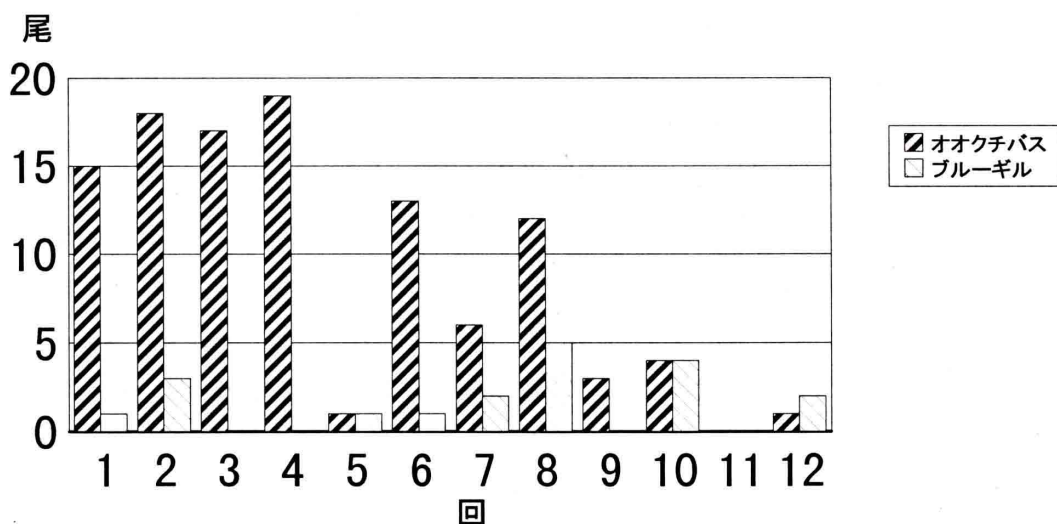


図1 投網による同地点繰り返し打網による採捕結果(平成14年11月25日月出舟溜まり).